

国際ロータリー第2760地区のガバナー 沓名俊裕氏（安城RC）が就任



国際ロータリー第2760地区（愛知地区）の新ガバナーに沓名俊裕さん（安城RC）が就任し、弊誌のインタビューでクラブ改革への意欲を語った。親睦中心のロータリーから奉仕活動とその発信に重点を置き、周囲に評価されるロータリーへ——沓名さんは「チェンジ」を合い言葉に新たなイメージのクラブづくりを目指す。（聞き手は塚本隆編集長）

——就任おめでとうございます。

沓名 先日日本のロータリー100周年を祝う会が行われました。長きに亘るその歴史がロータリーの魅力を示しています。ですが、時代の変化に順応できているか、今一度省みる必要があります。会員数を見ても、ここところは安定していますが、20～30年のスパンで見ると減っています。魅力があれば右肩上がりになるはずですが。ロータリーの良さや魅力を発信できるよう力を尽くし、やれることをしっかりやっていきたい。

——抱負をお尋ねします。

沓名 奉仕活動を活発にしてロータリークラブに対する周りの人が感じている評価を上げた

い。「自分たちが楽しめばいい」から「周りの人に評価されるクラブに」が私に与えられた課題と思っています。社会貢献活動と親睦がロータリーの活動ですが、ある意味、結束するほど外から入りにくい。もっと奉仕活動を新しい感覚を持った人に発信してもらいたい。ビジネスでも、いくら良いものをつくっても販売力がないと売れない。いい評価をもらえるよう発信力を高めていきたいですね。

——コロナ禍でのご就任です。

沓名 高齢化時代に加え、コロナ禍のともない時に就任したのかもしれません。しかし、これまでも山あり谷ありだったと思います。乗り越える何らかの方法はあるはずですが。マイナ

スに考えるより、もっと良くなるような手が打てればいいかな、と思っています。

——コロナ禍の影響は？

沓名 例会はオンラインやリモートなど各クラブの判断なのですが、ロータリーの基本はリアル（対面）です。そのために一つはワクチン接種拡充、もう一つは抗原検査の徹底です。予防対策をしっかりやって、10月9、10日のワールドフード+ふれ愛フェスタ、11月6、7日の地区大会は基本的にリアルでやります。高齢会員が多いのでオンラインではなかなか伝わりません。リモート方式もようやく慣れてきたところなので、まだまだリアルと同じくらいのものにしていく努力をする必要があります。

——外国の状況はどうですか？

沓名 欧米もコロナ禍なので活動の様子はあまり入って来ません。米国はワクチン普及で再開しつつあります。来年6月にテキサス・ヒューストンで国際大会が予定されており、参加者は限定されるかもしれませんが、私は参加するつもりです。

——さて、地区方針を決められました。

沓名 「チェンジロータリー 新時代への成長に！」です。コロナ禍で社会的背景も変わりますが、変えるべきものは変えていこう、という考えです。ビル・ゲイツも言っているように世界の危機は短期的にはコロナ禍、長期的には温暖化です。私どももコロナゼロ・カーボンゼロ支援活動を行っていきます。コロナの影響を受けている人にどう対処するのか、温暖化にどう取り組むのか。「人類の危機を救う」ロータリーにはそれだけの力ある団体だと思います。一石を投じて波紋が広がるような活動をしていきたい。大げさかもしれませんが、ロータリーだからできる、いやすべきです。このような啓蒙活動が皆の幸せにつながると考えています。

——具体的には？

沓名 認知度を高めブランド力を強くする。そのためにロータリーゼロバッジを全会員に付けてもらいます。SDGs バッジのように広がっ

てゆけばと考えると。そしてまず、国際ロータリー会長シェカール・メータ氏が第一に挙げている「会員増強」です。世界全体では120万人を130万人に、当地区では4738人を5000人にしたい。1人が1人以上に声を掛けることをお願いしています。女性や若い人には、あまり声を掛けていません。一人でも多くに声掛けをして頂きたい。私が入会した20数年前は経済界のトップはほとんどロータリーに入っていました。今までは会員同士の親睦を中心に内々で活動していたのですが、これでは一般に認知されません。世間から認めてもらうには外に働き掛け、広くPRしてようやく認知されるものだと思います。

もう一つは「ロータリー奉仕デー」です。コロナゼロ・カーボンゼロ支援について84クラブが共通したテーマで動いてもらう。統一感が出来るのでマスコミの協力も得やすく、報道されれば知名度アップにつながり、ゆくゆくは会員の増強にもつながるはずです。

——各クラブに期待したい活動は？

沓名 よりよい奉仕活動を行ってほしい。それには組織が必要です。多くの委員会がありますが、その人員配置が不十分で、組織を変えないと外向きの活動ができません。組織づくりをし、コロナゼロ・カーボンゼロ支援プロジェクトチームをつくり社会貢献していきます。私どもができることは小さなことかもしれませんが、一石を投じて輪が広がれば、人類の危機を救うほどの大きな広がりになるのではないかと思います。

——新しい取り組みに大いに期待しております。

沓名 俊裕（くつな・としひろ）

1951年3月生、70歳。安城市在住。73年愛知工業大学経営学部卒。79年東和建設設立。95年安城RC入会。99年商号変更で東祥社長。2016年、同会長。21年7月にRI第2760地区2021-22年度ガバナーに就任